



津鉄新聞

2013年 8月 25日 発行者: 本間 鼓太郎

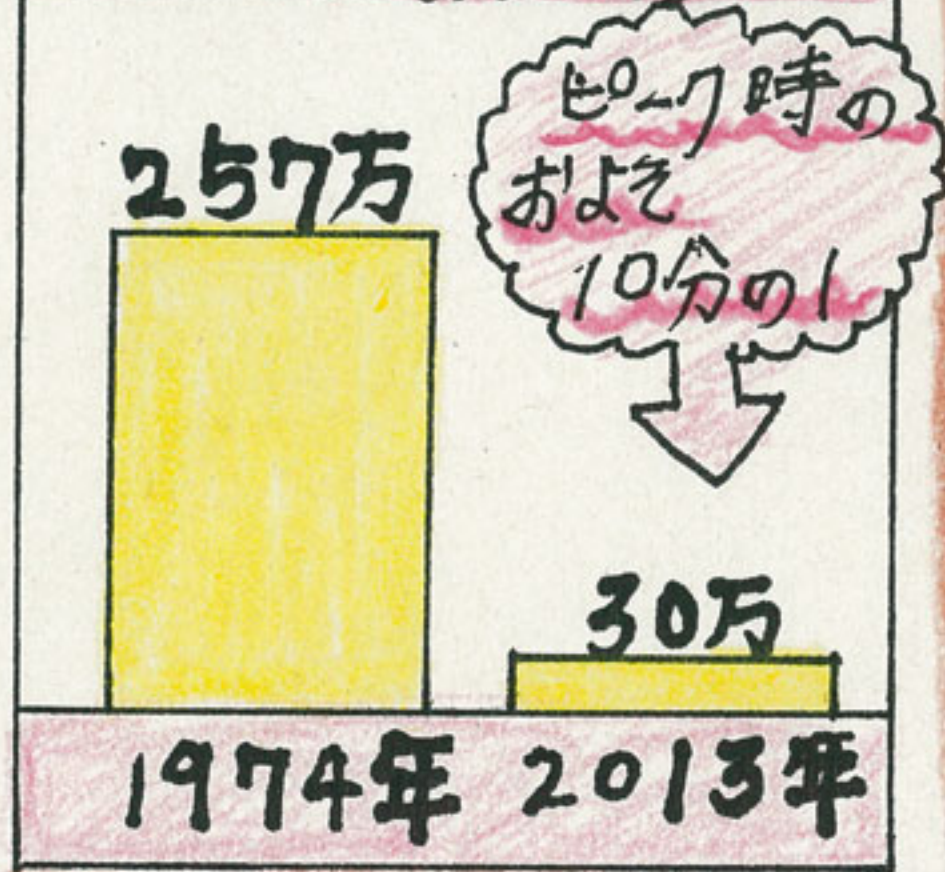
津鉄 存続の危機

全国的な少子高齢化、地方の中心商店街の衰退のあおりを受け、ここ40年、津軽鉄道の利用客は、減少の一途をたどります。一時は、路線そのものが存続の危機に立たされ、沿線住民の苦悩は深まりました。

津鉄を救え!

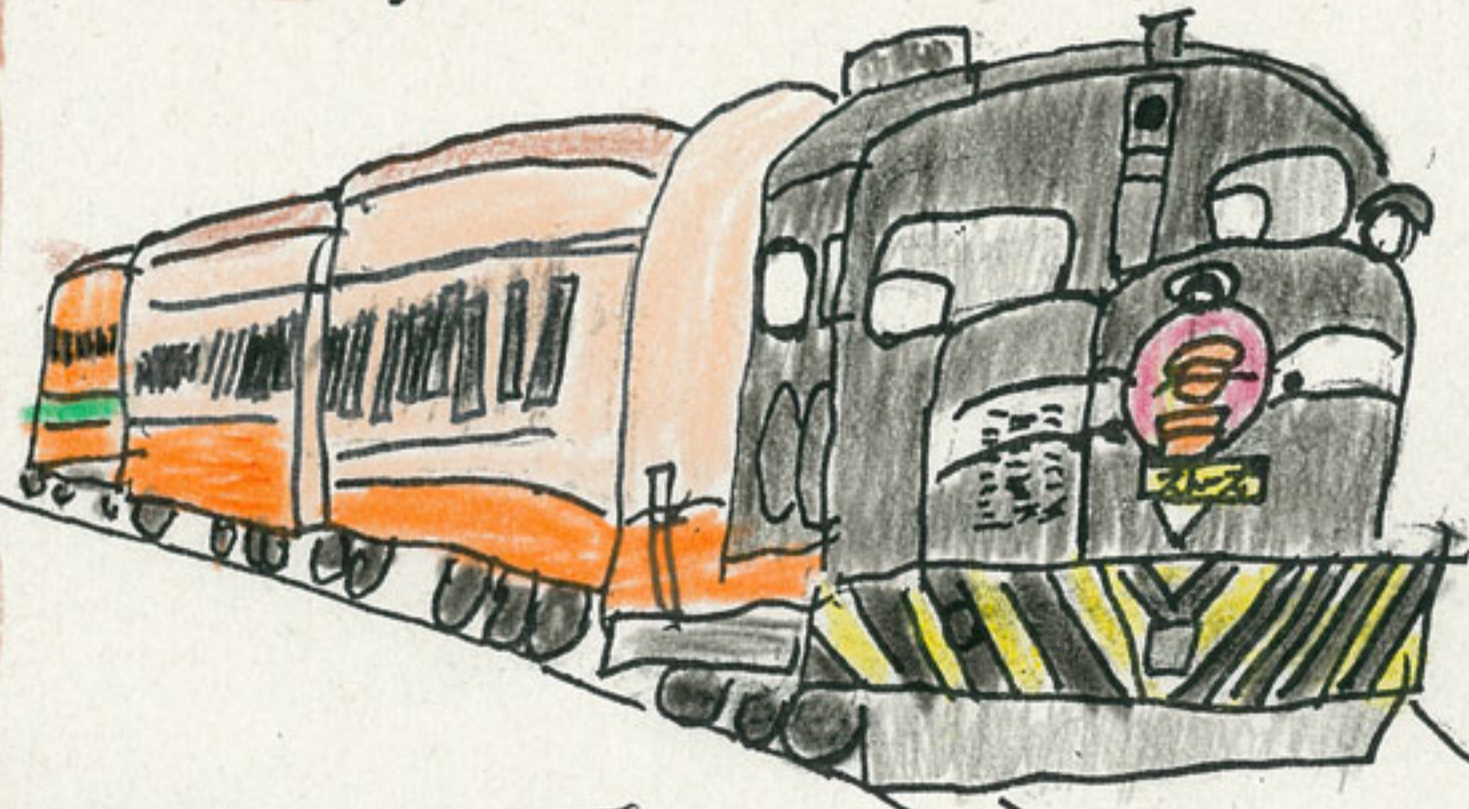
地方の鉄道が「津鉄サポーターズクラブ」結成 どんどん客を消す中「ストップ列車」(※)で全国的なファンを持つ津軽鉄道の危機を知った鉄道ファンが、2006年に立ち上がりました。

利用者数の変化



日本最北の私鉄

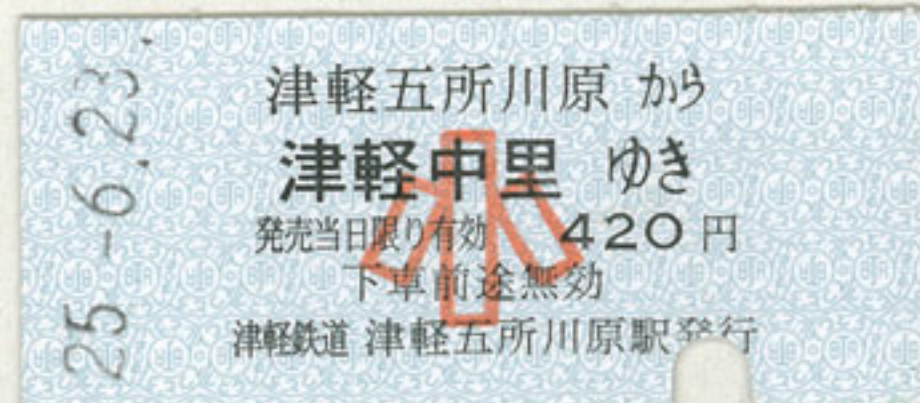
津軽鉄道



津軽鉄道を支えるために「津軽鉄道サポーターズクラブ」を結成し、列車を利用してイベントや商品開発を手がけ、津鉄を盛り上げたのです。
「ストップ列車」
因鉄時代につくられ、車内にタイルストーンの客車がいっぱいあり、冬に人気。

津軽鉄道

駅員さんがひびひとりに声をかけながら手ぶら改札してくれます。



トインマテンのお女市さんが津鉄や津軽地域の観光案内をしてくれます。

きれいなお姉さんが話し相手になってくれるので、お父さんも大喜びです。



僕は青森県内の鉄道を全て制覇する「鉄道探検の旅」を続けています。その中で、6月に探検した津軽鉄道は、昭和な感じがたくさん残っていて、僕にとり、とても新鮮な鉄道でした。これから僕が大好きになった津軽鉄道を色々な角度から紹介します。

調べてみて、わかったこと

津軽鉄道は地域を支える「足」としてだけでなく、沿線地域全体の活性化の「核」にもなっている。



火祭りや銘うた「真夏のストップ列車」など、楽しいものばかりです。

イベント列車

ストップ列車をまためた様々なイベント列車が走っています。例えば、太宰治と沿線地域のつながりを、車内をギャラリーとして展示する「太宰列車」のイベントや、手作りの資料も見ものです。

他にも涼しげに心をなごませられる「風鈴列車」や「鈴虫列車」。大人気企画、五所川原お祭り対抗「真夏のストップ列車」など、楽しいものばかりです。

終わりに

トロさが気に入って大好きになった津軽鉄道。お客さんを楽ませる工夫がたくさんあって、乗っているだけでも楽しいので、いろいろと



調べていくうちにその華やかさの裏にある津鉄のかかえる困難な問題も見えましたが、業にできることは限られていますが、これからも津鉄のイベントに参加して津鉄を応援していきたいです。